

抗血栓療法中の非ステロイド抗炎症薬の併用で出血・心臓血管イベントが増大

心筋梗塞後の抗血栓療法中に非ステロイド抗炎症薬 (NSAIDs) を併用することについては安全性が懸念されている。そこで本研究では、抗血栓治療中に非ステロイド性抗炎症薬を併用した場合の出血および心臓血管イベントを調査した。

デンマークにおける 2002～2011 年の入院患者のデータを用い、30 歳以上で初発の心筋梗塞を経験し、退院後 30 日間生存していた患者 61,971 例 (平均年齢 67.7 歳; 男性 63%) を対象とした。心筋梗塞後のアスピリン、クロピドグレル、または抗血栓薬、およびそれらの組み合わせ治療と、非ステロイド抗炎症薬の併用について調べた。その結果、34% の患者が 1 種以上の非ステロイド抗炎症薬を処方されていた。3.5 年間 (中央値) の追跡期間中に 18,105 例 (29.2%) が死亡した。出血イベントの発生は 5,288 例 (8.5%)、心臓血管イベントの発生は 18,568 例 (30.0%) であった。分析の結果、非ステロイド抗炎症薬併用群は非併用群と比較して、出血リスクは 2.02 倍、心臓血管イベントリスクは 1.40 倍に増大した。また、これらのリスクは、抗血栓療法や非ステロイド抗炎症薬の種別を問わず、また併用期間を問わず、併用により増大した。

したがって、心筋梗塞後の抗血栓治療中における非ステロイド抗炎症薬の併用は、たとえ短期間であっても出血や心臓血管イベントのリスクを増大することが示された。今回の所見についてはさらなる検討を要するが、心筋梗塞後の患者への非ステロイド抗炎症薬の処方には注意しなくてはならない。

出典 : Journal of American Medical Association. 2015; 313(8):805-814